

生物多様性の視点で玉川上水を歩いてみた!

玉川上水は、1653年徳川幕府三代目将軍家光の時代に多摩川の羽村取水堰から四谷大木戸まで43キロ、高低差92mの水路が開削されました。江戸市中に飲料水や生活用水を供給したり、33の分水により、武蔵野台地の新田開発に大きな役割を担っていました。羽村から小平監視所までは今も水道原水が流れています。原野だったところに水路ができたことで樹木が豊かに育ち、東京都を横断する貴重な「緑の回廊」となっています。



多摩川には鳥がいっぱい



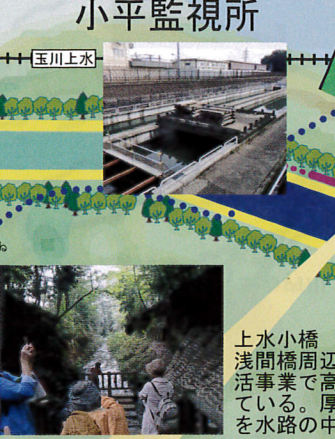
水喰土(みずくらいど)公園
福生・昭島市周辺は、頭を丸坊主にされた木が目立つ。きのこが生え、枯れている樹木も見られる。

郵便はがき
160 0021
切手をお貼りください。

新宿区歌舞伎町2-19-13
ASKビル 4階
東京・生活者ネットワーク 行

緑地や生物多様性の環境保全に関してのご意見をお寄せください。

ここからは地下の導水管で東村山浄水場へ送水され、一部は新堀用水へ流れている。

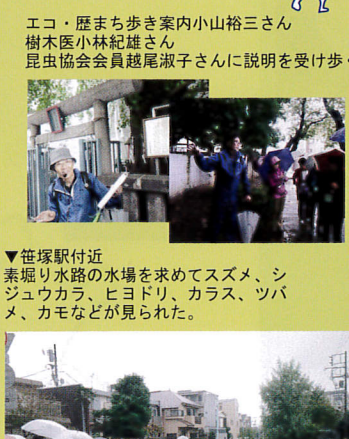


玉川上水駅~鷹の台
2015年10月20日



小平周辺の玉川上水
下草も多く、哺乳類も出没するようだ。

笹塚~四谷大木戸
2015年10月16日



道路や 小金井桜の再生事業で分断されるみどり



小平3・2・8号線は小平中央公園を縦断する。公園の東の林はコナラやケヤキ、ヒノキなどが茂る。南に隣接する玉川上水には、キンランなど植物10種、アオバズクなど鳥類9種、ヒグラシなど昆虫3種の希少種が確認されている。

明治26年玉川上水の汚染でコレラが発生! 淀橋浄水場を作り和田掘より上流の水路が不要に。跡地を京王線が走るようになった。

